

# 今年の干支は壬寅

みずのえとら

2022年は、十干が壬（みずのえ）、十二支が寅（とら）の年に当たるので、干支は壬寅です。壬寅には、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる年になるという意味があるようです。ちなみに、十干と十二支の組み合わせは60通りあり、壬寅は39番目です。

新年を迎える前に、トラの置き物作りの教室が市内の公民館などで行われ、その様子を取材しました。

12人の女性が参加する中11月13日、棚尾公民館ではトラの置き物作りが行われました。この置き物作りの材料は、色鮮やかなちりめん、正月にぴったりです。指にとったポンドをちりめん丁寧にぬっては、折りたたむことを繰り返して、トラが着る袴や袖などのパーツを組み合わせていきました。

「しるしから2cmのところを折り上げて」「ちりめんの見せたい柄を手前側にして」と講師の久津名節子さんからアドバイスを受けながら作成は進み、参加者から「これでいいのかなあ」と不安の声があげると「大丈夫！できそうですよ！」と久津名さんが答え、笑い声があがったりと、にこやかな雰囲気の中行われました。1人で複数分の材料を購入している参加者も何人かいました。

また、東部市民プラザでは11月18日に、日本陶芸療法士協会の鶴海昌子さんが講師を務める中陶芸教室が行われました。



参加者10人が立ち上がったって簡単な体操を行った後に教室は始まり、まずは鶴海さんが見本のトラを作りました。

「粘土をこのくらいに分けて親指にはめて」と説明が始まると、あっという間に胴体ができあがります。耳や尻尾をつけて、トラ柄やひげを描いていくと、ものの数分で見本のトラができあがりました。

参加者もいざ挑戦してみると、中々はかどらず、見本を見ては少し作り上げてを何回も繰り返す人も少なくありません。「トラに見えない」「トラの目ってどんな感じだっけ?」「タヌキに見える」などの声が飛び交うも、およそ40分で出来上がりました。陶芸の焼き色は、黒・青・白・黄色の4色から選べ、「ホワイトタイガーにしようかなあ」と話している参加者もいました。

いずれの教室でも、完成した作品を自宅に飾ったり、知人に渡して飾ってもらおうとの声が聞こえました。今頃、きっと飾られているのでしょうか。「私の娘がトラ年」や「これまでの作品がたくさんあって家に置く場所が無くなってきた」などの会話とともに、笑ガオーいっぱい教室を楽しんでいるように映りました。

## 12年前はこんな年

12年前の寅年は平成22年(2010)。この年は、小惑星探査機「はやぶさ」7年ぶりの地球帰還や、チリ鉱山落盤事故での作業員33人奇跡の生還、尖閣諸島での中国漁船衝突事件、菅直人内閣の発足がありました。

また、一時は品薄にもなった「食べるラー油」や、お笑いコンビWコロンが行う謎かけでのフレーズ「ととのいました」、シングルCD年間売り上げトップ10に4曲入りを果たしたAKB48が話題となりました。

碧南市ではこの年、3月にららくるにしばたの開館、12月に堀方町にある住吉橋の開通がありました。

